

TAKESHI KAKEHASHI

Official fanclub Newsletter No.21

2016年 春号



ご挨拶

風薫る季節、皆さまお変わりなくお過ごしでしょうか。いつも応援していただいて、心から感謝しております。

前回の会報以降の活動は会報の記事にもあると思いますが、北海道、ウィーン、ロンドン、小松、東京と、各地で演奏会が続きました。中にはホームコンサートに近いものもありましたが、おかげさまで充実した半年でした。



今年に入って、3月には初めて沖縄に行ってきました。僕のソロ演奏もありましたが、父が室内楽とオーケストラに入って演奏したので、姉のアイ子も同行し、家族三人での訪問でした。沖縄市の小学校と中学校では、現地の行政のご協力、校長先生の熱心なご支援をいただいて「子供に伝えるクラシック」の活動もできました。慣れないピアノを演奏する時はいつも緊張するのですが、演奏を始めると生徒さんたちが食い入るように聴いて下さるのがわかります。質問コーナーでは、皆、自分の言葉で積極的に質問してくれて大変盛り上がりました。「子供に伝えるクラシック」の活動を続けてきてよかったなあ、と改めて思いました。

沖縄演奏の数日後は関西の高槻と芦屋でのコンサートでした。ところが出発の朝発熱してしまい、無事に演奏できるか心配になりました。実は以前タイでも高熱を出して病院から会場に駆けつけたことがあります。その時は必ずしも納得できる演奏とはいきませんでした。しかし、今回は同じような状況ではありましたが、自分でも満足できる演奏ができ、これは大変自信になりました。健康管理の大切さを痛感すると同時に、経験を積み重ねることの意味も感じさせてくれる公演だったと思います。

さて、今年度もすでにウィーンでの演奏や、各地での予定が決まっています。「子供に伝えるクラシック」の活動も、2か月に一度の割で予定されています。ファンクラブの皆さまのこうしたご支援を心に刻んで、これからも精進していこうと思っています。どうぞよろしくお願いいたします。



4月28日深夜、思いがけないニュースが稲田事務局長から届きました。ウィーンの楽友協会でリハーサル中のダニエル・バレンボイム氏に梯さんがお会いしたとのこと。ウィーン・フィル第一ヴァイオリン奏者のホーデン・ボルク和樹さんのお取り計らいだそうです。

目次

Page 1

◆ご挨拶 梯 剛之

Page 2-4

◆オーストリア・リエントで

梯 孝則

Page 4-5

◆剛之さんと「八王子六つ星会」点訳の現場から

諏訪部 雅子

Page 6

◆剛之さんと小松の「カケハシ」に

木田 智滋

Page 7

◆プロースト交響楽団との共演を聴いて

今井 紀久男

Page 8

◆待ってました、梯剛之さん！日本モーツァルト協会例会に登場

堀井 章

Page 9-11

◆子どもに伝えるクラシック活動報告

北海道 稲田 俊介

石川県 木田 智滋

沖縄県 稲田 俊介

Page 12

◆事務局便り

別紙：懇親会報告

高槻・芦屋 古家 峰子

東京 事務局

コンサート・チケット情報



梯剛之さんは、2015年度は海外での演奏も多かった一年でした。年初4月末から6月初めまでオーストリアに滞在、次いで8月にロシア、2016年に入り1月中旬は再度ウィーン。国内の演奏会も含め忙しくも充実した一年を過ごされたようです。渡航の主目的はこの4年継続となったヴォルフガング・ダヴィッドさんのヴァイオリンとのデュオ、併せてご自身のソロ演奏ですが、もうひとつ、慣れ親しんだ音楽の都でのご自身の音楽の研鑽と、こころの充電の意味合いも大きいようです。

今回も、同道されたお父様(梯孝則氏)からの、愉快的エピソードを交えたご報告をいただきました。



◆演奏先のリエントツ情報◆

リエントツはオーストリアのチロル州リエントツ郡の基礎自治体。チロル州の飛び地である東チロル地方の中心の町。ウィーンから南西へ312kmの地に位置し、登山とスキーなどリゾート地としてにぎわう。

面積: 15.94 km² / 人口: 1.197万 (2009年4月1日)

♪♪2016年1月25日

日本は大変な寒波が押し寄せて来ているようですが、今日のウィーンはこの時期だったら雪になるところが雨で、ちょっと逆転した感じです。一昨夜リエントツのコンサートが終わって無事にウィーンに戻ってきたので、その報告をお送りします。



リエントツの町中

リエントツは東チロルの人口約1万の小さな町。周りを山に囲まれていて、泊まったホテルの客もほとんどがスキー客のようでした。

ウィーンからの行き帰りは、支援者でいつもお世話になるペトラさんから借りたベントスをダヴィッドさんが一人で運転するという貧乏旅行でした。行く前にペトラさんが「ダヴィッドは運転が上手」と言っていたのですが、内心少々不安です。5時間の行程なので2回くらいはトイレ休憩を取るだろうと予想していたらとんでもない。夕方の4時出発だったせいかとも思うけれど、ダヴィッドさんは「早く着いておいしいものを食べたい」と言って4時間休みも取らず運転しっぱなしなのは呆れました。着く1時間前になってようやくトイレ休憩を取ってくれましたが、出るものを出したら即出発です。

予定通り9時に着いて、ホテルの地下にあるイタリアンレストランで明日のコンサートの前祝いをして無事に1日を終えました。周りは素晴らしい景色のようだけどそれを楽しむのは明日に残して、今はひたすら眠りにつくことが先決です。

♪♪ 2016年1月26日

翌朝、目が覚めたら雲ひとつない青空のもと陽光を浴びて白く輝くアルプスの山々が四周を取り囲んでいて期待通りの景色です。一人で来ているのだったら即、その辺を探索するところですが、ダヴィッドさんと遅めの朝食を約束していたので、それまでは剛之もゆっくり寝かせておこうと、じっと我慢の子、です。朝食後すぐに会場練習をすることになりました。ホテルから目の先に会場があって、これだったらホテルで舞台衣装に着替えて行けそうです。会場は教会を音楽会場として使えるように改装したもので、規模こそ小さいけど、サンクトペテルブルグの時と同じ問題点がありました。ピアノがワンワンと響きすぎて、カエルの卵状態になるのです。その点ヴァイオリンの音は鮮明に聞こえて来るのは、音響学的にはどうということなのでしょう。

練習後、ホテル下のレストランで昼食をとって、いよいよ剛之を連れて散歩という名目で観光しようと思ったら、毎年リージングで音楽会を催してくれている、ウエルナーさんご夫妻が車で会いに来て下さるということで、散歩はしばらくお預けです。懐かしいウエルナーさんご夫妻と一緒にそれはそれは可愛い2歳の女の子と5歳の男の子も一緒に来てくれて、賑やかな再会の一時になりました。ウエルナーさんはその晩、趣味？(ほとんど専門家)のチロルの民族音楽の演奏会に出演するので残念ながら聴けないということで、お茶を一緒にしただけで、お別れになりました。

剛之は少し疲れたのでホテルに戻って昼寝したいと言うので、またもや観光はお預けです。剛之と付き合っただけで昼寝していたら僕も出かけるのが億劫になって、結局リエッツもホテルと会場の往復の100mしか知らないことになってしまいました。



リエッツ 町の全景

こちらの開演は20時からが多いのですが、ここもそうでした。開演前に入ってくるお客様を見るとご年配のご夫妻らしい二人連れが圧倒的に多く、それも皆さん前から順番に詰まって行く感じなのは初めて目にする風景でした。会場は300位のキャパなのですが前から半分にぎっしりお客様で詰まって後ろ半分がパラパラという状態でした。きっとこの会場の音響をよくご存知のせいだと思います。それにしても若い人が少ないのが残念です。こちらも若者のクラシック音楽離れが顕著なのを感じました。

いよいよ開演直前になって剛之が緊張からか、トイレに行きたいと言い出しハタと困りました。控室からトイレに行くには座っているお客様の前を結婚式の新郎新婦状態で中央通路をしずしずと二人で往復しなくてはならないのです。我慢を強いるのも可哀想なので、やむなく行進を決定しました。

クラシック音楽に対する親密度は拍手で大体わかるのですが、ここの聴衆は拍手のタイミングが絶妙でなかなかの聴衆と思われます。後ろで聴いていると響きすぎて音符の細かいところがまるでわからないのですが、演奏している本人たちは風呂場で歌を歌っている感じでよい気持ちになるらしくすっかり乗って弾いているのがわかります。ブラボーもしきりに出て、大成功だったと思います。

帰りに聴衆の一人の年配の女性が「沢山の演奏会を聴いたけど、今夜の演奏会が一番良かった」と声をかけてくれたのが一際、嬉しかったです。

♪ 2016年1月28日

リエッツから帰った翌日は「まだ、自分もよくさらってない曲もあるので1日お休みにしましょう」というダヴィッドさんの提案で初めて音楽会を聴きに行けることになりました。



シフ・アンドラーシュは、ハンガリー出身のピアニスト。日本でもファンが多い。

ラッキーなことに剛之も若いころ一度だけレッスンを受けたことのあるシフさんの演奏会がムジークヘラインで聴けました。

前半は、シフさんの指揮でモーツァルトとメンデルスゾーンの弦楽のためのシンフォニー。後半がシフさんの弾き振りでメンデルスゾーンのピアノコンチェルトとモーツァルトのK466のコンチェルトというプログラムでした。オーケストラはCappella・Andrea・Barcaという名称の団体でしたが、おそらくシフさんが組織しているオーケストラではないかなと想像して聴いていました。小編成のオーケストラですが、とても音質が柔らかな、モーツァルトを演奏するのにぴったりな響きの素晴らしい演奏でした。会場と音質のせいで、いつの間にかモーツァルトの時代に戻ってモーツァルトの演奏を聴いているような幻覚状態におちいりました。

ウィーンという街自体がそのような要素を持っているし、世界の中でこの街だけはクラシック音楽の博物館としての存在を保ち続けるのではなかろうかなどと考えながら聴いていました。後半の



ピアノコンチェルトのシフさんの弾き振りも、前半で聴いたオーケストラの響きがそのままピアノに変化しただけというモーツァルトにぴったりの音質と音楽で、あらためてシフさんが素晴らしい演奏家であることを認識しました。前回に来た時に聴いたバレンボイムのシューベルトも驚嘆しましたが、それをたとえば最新鋭高性能高級車に乗せてもらった感激で、今回はモーツァルト時代の手造りの高級馬車に乗せてもらった感動とたとえばよいでしょう。いずれにしろ時代を超えた永遠の芸術の存在を確信した一夜でした。

梯孝則PROFILE 1962年国立音楽大学入学、1977年N響入団。2003年N響定年退団。

現在は「古典音楽協会」「アカンサスⅡ」「N響団友オーケストラ」各団員として音楽活動を継続している。

当ファンクラブでは、梯剛之さんの視覚障がい乗り越えての音楽に惹かれ、同じ障がいを持たれる方も会員として梯さんを支援して下さっています。その皆さま方にも読んで頂くために会報の点訳をお願いしています。

その点訳でお世話になっているのが「八王子六つ星会」という点訳ボランティアグループです。今回は同会の会員でファンクラブの会員でもある諏訪部雅子さんにお願いし、ご寄稿いただきました。

梯さんと「八王子六つ星会」

東京都八王子市 諏訪部雅子



点訳ボランティアグループ「八王子六つ星会」が梯さんの読まれる本を点訳するようになったのは、梯さんが普通小学校（八王子市立中山小学校）に入学することが決まり（1984年）、教科書の点訳を依頼されたのが始まりだったように思います。その前年、私は八王子市主催で行われた点字講習会で、梯さんのお母さまと机を並べて勉強したご縁で、なみのり保育園に通っていた剛之くんの応援隊になったのです。

当時は今のようにパソコンを使つての点訳ではなく、点字盤を使って1点1点打つ「1点打ち」や、6点が一度に操作できる「かにタイプ」を使つての点訳でした（点字はヨコ2点、タテ3点の、六つの点の組み合わせで文字を表し、50音や数字、ローマ字、記号など書くことができます）。

低学年の教科書には文字だけでなく挿絵も描かれているので、手で触ってわかるように布や糸など色々な材料を使って挿絵を考えました（触図）。さらに高学年になると社会科や理科の教科書には地図や天文など出てきたので、私たちも剛之くんに理解してもらえよう、皆で知恵を出し合いながら作ったものです。触図はまるで工作をしているようでもありました。

梯さんが小学校を卒業し、ウィーン国立音楽大学準備科へ入学されたのちも、現地の日本人学校で使う教科書や、参考書、梯さんから依頼される音楽関係の本など、沢山の読み物を点訳してウィーンへ送りました。小さい時から読書家だった梯さんは現在に至るまでに私たちが点訳した本をどのくらい読まれたでしょう。記録しているメモによると教科書や月刊誌などを除いて300タイトルを読破されています。

「八王子六つ星会」は昨年創立35周年を迎えました。会員数70名の大所帯で、会員の中には視覚障がい者が3名おります。うち2人は盲導犬と一緒に活動されています。

私たちは小、中学校や高校から依頼があると点字を知ってもらうため、点字学習指導で学校へ向きます。それは生徒たちに障がい者を理解してもらう大きな目的にもつながります。視覚に

障がいのある会員が、障がい者の立場から日常生活の話をしたり、実際に盲導犬の素晴らしいお仕事ぶりを見てもらうと、生徒たちの理解がさらに深まります。

「八王子六つ星会」の会員は、一般点訳(小説、専門分野の資料、取扱説明書、絵本、漫画、NHK厚生文化事業団や市役所から依頼されたもの等々)を随時担当するほか、16のグループに分かれて活動しています。『梯剛之ファンクラブ会報』や演奏会のプログラムなどは「梯剛之グループ」の現在7名が関わっています。梯さんから依頼された本や、読んでもらいたいと私たちが選んだ本は、定例会の時、会員全体に点訳者を募りますと、いつも大勢の方が手を挙げてくれますので、会員の殆どが梯さんの本に関わってくれています。



第20号の会報の点訳版。66頁点字紙33枚にもなります。演奏会スケジュールを入れると78頁点字紙39枚です。両面に点字が書かれています。

梯さんに定期的に送る読み物の中には「八王子六つ星会」の『月刊誌(てんとう虫)』や『ラジオ深夜便(抜粋)』などがあります。いつか梯さんが言われた言葉に「これらの読み物は僕をもの知りにしてくれる・・・」。また、「八王子六つ星会」の創立30周年記念誌に寄せてくださった梯さんの文の中には「僕のために点訳して下さった数えきれない僕の宝物たちは、僕の教養の大きな部分を形成してくれている・・・」とも。そのありがたい言葉を励みに私たちはまたパソコンに向かいます。

点訳は数人で分担し、点訳フリーソフトを使ったり、自動点訳ソフトという便利なものを使って行います。点訳する時、まず充分な下調べをして取り掛かります。点訳後の編集、校正(2校から3校)を経て、データを点字プリンターにかけて印刷し、バインダーやリング綴じをして点字本が出来上がります。1冊の本が完成するまでに、おおよそ3か月から4か月、また半年以上かかることもあります。

以下の点字本は最近梯さんから依頼されたものです。

『ピアニストが語る！ 音符より音楽を！ 現代の世界的ピアニストたちとの対話』上巻430頁、下巻477頁(点訳するとバインダー綴じにして上巻8冊、下巻10冊になりました)。

『バルカンから響け！ 歓喜の歌』(柳澤寿男著)原本247頁(点訳版は3冊になりました)。

お忙しい梯さんがこのように大量の点字本を、どんな時間に読んでくださるのでしょうか。直接伺ったことはありませんが、きっと練習が終わった後の時間にゆっくり読んでくださるのだと思います。

以前、『子供に伝えるクラシック』でDVDを制作された時、モーツァルト編、シューベルト編、ベートーヴェン編の制作前には、必ず各作曲家の自伝や手紙などを事前に読んでいらしたことを記憶しています。必ずご自分の中にイメージを膨らませてから演奏されているのでしょうか。私たちも梯さんのこういう取り組みに、点訳を通して応援させていただいています。八王子で育った梯さんが、地元八王子でまたいつか演奏会を開いてくださることを心から願っています。その時にはまたプログラムの点訳でお手伝いしたいと思っています。(2016年4月記)



点字は、用紙の左上から横に凸面を指先でなぞって読みます。

【事務局ひとくちメモ】



駅のホームや通路、広場などに見られるこの点字ブロックは、視覚に障がいをお持ちの方々には大切な道しるべです。この上には荷物を置いたりしないように留意したいものです。

剛之さんと小松の「カケハシ」に

石川県小松市 木田智滋



演奏日: 2015年12月10日

演奏: ピアノ 梯剛之 ヴァイオリン ヴォルフガング・ダヴィッド

会場: こまつ芸術劇場うらら

前年に引き続き2度目の演奏会です。初めてお二人のリサイタルを開催した時に足を運んでくださった方々からとても好評で、「もう一度お二人の演奏を聴きたい」「小松にこんなにも素晴らしいホールがあることを知らなかった」という多くの声をいただいております。

お二人はウィーンで再会された折に小松でのリサイタルの思い出話に花を咲かせたそうです。5月のある日にお父様から「今年(2015年)も小松でリサイタルを開催していただけないか」との内容でお手紙をいただきました。前回から半年も過ぎないうちのご依頼で、2年続きの開催には最初は迷いましたが、小松の方やファンクラブの方々の声を思い返し、開催をお受けすることにしました。また「子供に伝えるクラシック」の演奏会も引き続き行うことにしました。

前回の経験もありチラシやチケットの準備はスムーズでした。プログラムノートは、ソナーレ・アートオフィスの金子哲理さんをお願いし、点字プログラムは、今回もファンクラブの諏訪部さん(八王子六つ星会)に作っていただきました。チケット販売も、前回協力してくださった方々の応援もあって順調に進んでいきました。

当日の演奏曲はベートーヴェンの〈ヴァイオリン・ソナタ第3番 変ホ長調 作品12-3〉と〈第7番 ハ短調 作品30-2〉、フォーレの〈ヴァイオリン・ソナタ第1番 イ長調 作品13〉でした。プログラムノートで金子哲理さんが解説されていますが、お二人は一貫してベートーヴェンのヴァイオリン・ソナタを演奏されており、1年目は第9番「クロイツェル」、2年目は第6番と第8番、そして今回は第3番と第7番でした。ベートーヴェンのヴァイオリン・ソナタ全10曲のうち小松では4曲が演奏されたことになります。お二人の演奏は年齢的にも円熟味が増してきており、今回も演奏会を開催できることは本当に幸運なことだと思っておりました。

こまつ芸術劇場うららでの演奏会当日、ホールで来場者をお迎えしましたが、何人もの知り合いの方が、「今年も楽しみにしてきました」と声をかけてくださり、今回も開催に踏み切ってよかったと嬉しさでいっぱいになりました。会場は満席。演奏会が始まるとお二人の息の合った演奏に聴衆はどんどん引き込まれていきました。プログラムの演奏が終了し、アンコールが終了しても拍手は鳴り止まない状態でした。演奏会後のCD販売、サイン会には長い列ができ、250席の会場でしたが、CDはなんと50枚を超えて求められました。



話は前後しますが、演奏会の前々日には、我が家でお二人とお父様を囲んで小松で応援して下さっている方々とのウエルカムパーティを開きました。梯剛之さんのいつものダジャレも混じり、和やかな会となりました。参加者の中には、生まれたときから全盲の幼稚園年中組の女の子を持つお母さんもおられ、小学校の就学について梯剛之さんやお父様に相談されたりと、音楽以外にも多岐にわたる話題が出て、意義のあるパーティでした。

この会報の別項に掲載されている「子供に伝えるクラシック」の活動といい、こうした集まりの中での交流といい、2年続けての演奏会を経験して、小松では、お二人の人柄と演奏に魅了され、多くの方々がファンになってくださったように感じています。

プロースト交響楽団との共演を聴いて

東京都稲城市 今井紀久男

【演奏日】 2015年11月29日(日)

【会 場】 ミューザ川崎シンフォニーホール

【演奏曲】 ブラームス :ピアノ協奏曲 第2番 変ロ長調 作品83
マーラー :交響曲第1番 ニ長調「巨人」

指 揮 柳澤寿男

ピアノ 梯剛之

小春日和の日曜の午後、大勢の人出で賑わうJR川崎駅前のミューザホールにほぼ満席の大聴衆。ここを本拠地とするプロースト交響楽団と指揮者の柳澤寿男氏(バルカン室内管弦楽団音楽監督、コソボフィルハーモニー指揮者)とは浅からぬご縁。梯さんはこの柳澤氏の指揮により2014年7月サラエボで共演しておられることはすでにご承知の方も多かろうと思います。

今回のピアノ協奏曲はラフマニノフの第2番、第3番などと並ぶ難曲ですが、この曲目をこのお二人が創り上げることに期待が高まります。

この曲は1881年ブラームス48歳の時の作品です。イタリア旅行で着想を得たものといわれ、重厚で抑鬱的なブラームスの印象は薄く、軽快で開放的に感じます。

剛之さんは普段通り、真摯で飾らぬ演奏ぶりで聴衆を魅了。私もショパン、シューマンとは異なるブラームスの世界に浸ることができました。とりわけ第1楽章のホルンとの繊細な掛け合い、第3楽章のチェロの独奏(日本フィルハーモニーの横山桂さん)との掛け合いは絶妙で堪能しました。

今回の指揮者、オーケストラ、剛之さんの三者の相性が非常によく、素晴らしい演奏でした。聴衆のみなさまも満足されたことと思います。

第2部は、マーラーの「巨人」。多種多様な楽器を使う大編成オーケストラによるものです。大学オーケストラOBが中心のこのアマチュア楽団にとってはさすがに大曲とみえ、オーボエ、ヴィオラ、パーカッション等、客演にN響や読響などの奏者を招いていました。ブラームスのピアノ協奏曲第2番、マーラーの第1番という難曲に挑戦した今回の意欲的企画は、ピアノの梯さんと8名の客演のお蔭で大成功を納め、万雷の拍手、幾度ものカーテンコールとなりました。

梯さんは、第1部の演奏を終えてから私どものいる2階正面の席で、ご家族と一緒に姿勢よく聴いておられました。

演奏会が跳ねた後は心地よい余韻に浸りながら、数名の会員の方々と、盲導犬レイチェルも一緒に、ビルの地下にあるベジダイニングで歓談。名演奏と会員の方との交流に忘れられない一タとなりました。

◇冬うらら ピアノコンチェルトに 聴きほれて

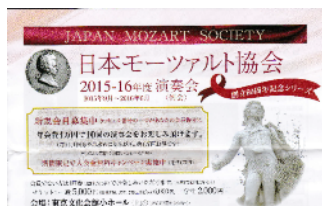
◇小春日や 盲導犬も 楽堂に



プロースト交響楽団は2003年4月に設立。首都圏の各大学オーケストラや第18回全日本大学オーケストラ大会合同演奏出演者が中心となって結成。現在メンバーは90名程度。団名の“プロースト”とはドイツ語で“乾杯”の意味。「いい音楽をいい仲間と、そしていいお酒を…」の理念の下、活動しておられます。

待ってました、梯剛之さん!! — 日本モーツァルト協会例会に登場

梯剛之オフィシャルファンクラブ前会長 堀井 章



【演奏日】 2016年4月21日(木) 【会場】 東京文化会館 小ホール

【演奏曲】 モーツァルト : ヴァイオリン・ソナタ ト長調 K379
 : ヴァイオリン・ソナタ 変ホ長調 K481
 : ヴァイオリン・ソナタ イ長調 K305
 : ヴァイオリン・ソナタ 変ロ長調 K454

4月21日梯剛之さんがヴァイオリンのダヴィッドさんとともに日本モーツァルト協会の例会に初めて登場しました。上野の東京文化会館小ホールは開館の1時間前から長蛇の列がつけられました。そうです。日本モーツァルト協会会員の皆さんは、ずっと以前から梯剛之さんをよく知っているのです。モーツァルを愛してやまない会員たちは梯剛之さんの音がいかにモーツァルトにふさわしいか、例会に招いてみんなで確認したいのです。

日本モーツァルト協会はモーツァルト生誕200年を記念して1955年に設立されました。会員はすべてK番号が与えられ、毎月の例会はすべてモーツァルトの曲が演奏されます。今回の例会は578回目の例会でした。私も50年以上毎月の例会でモーツァルトを聴いてきましたが、随分前から剛之さんに是非演奏してもらいたいと思っていました。モーツァルトの音とモーツァルトのころは梯剛之さんに最もふさわしいと思ったからです。

演奏はまさにウィーンのモーツァルトでした。あくまで穏やかで美しいアンサンブルの世界でした。ピアノはベーゼンドルファー。美しいピアノリッツモを奏でる「ウィーン・トーン」ベーゼンドルファー。ベーゼンドルファーは剛之さんがウィーンの自宅でも愛用していた、お気に入りのピアノです。ヴァイオリンは伝説のカルロ・ベルゴンツィ、艶やかで柔らかな音色。このピアノとヴァイオリンが織りなす絶妙なアンサンブルはヴァイオリン・ソナタのイメージを一新するものでした。ピアノ伴奏のヴァイオリン・ソナタでなく、ヴァイオリン伴奏のピアノ・ソナタでもない、まさにピアノとヴァイオリンが対等に奏でるハーモニーの世界です。私はこんなにピアノとヴァイオリンが溶け合い、お互いに高めあう演奏は聴いたことがありません。

曲目も二人の共演にふさわしいものでした。ウィーンで作曲されたト長調と変ロ長調のソナタは、モーツァルトが二人のヴァイオリンの名手との共演のために書いたソナタで、まさにピアノとヴァイオリンの協奏曲となっています。剛之さんとダヴィッドさんのウィーンの香り豊かな演奏は、まさにモーツァルトとヴァイオリンの名手との当時の共演を思わせるものでした。

とにかくモーツァルトが好きでたまらない日本モーツァルト協会の会員500人が、剛之さんとダヴィッドさんのアンサンブルに酔いしれました。協会会員の皆さんの満ち足りた様子を見て、梯剛之ファンクラブの私たちもととてもうれしく思いました。

アンコールでは悲しみに満ちたホ短調のメヌエットが情感を込めてうたわれ、なにか、とてもこころを残すコンサートでした。

日本モーツァルト協会は、モーツァルトの音楽を気軽に楽しむ愛好会。1955年のモーツァルトの誕生日1月27日に設立されたそうで現在の会員数は500名を超えているとのこと。今回の演奏会は梯剛之公式ファンクラブ前会長の堀井様のお骨折りで実現しました。





子どもに伝えるクラシック 活動報告

♡2015年度下半期に実施された活動♡

2015年	10月 23日	北海道札幌市立	札幌開成中等教育学校
	12月 9日	石川県小松市立	芦城小学校
2016年	3月 10日	沖縄県沖縄市立	比屋根小学校
	3月 15日	沖縄県沖縄市立	美里中学校

♡2016年度4月現在予定されている活動♡

2016年	6月 11日	東京都練馬区立	大泉第3小学校
	7月 1日	山形県米沢市	川西町立川西中学校
	9月 1日	群馬県安中市	新島学園中学校・高等学校

§ 札幌市立 札幌開成中等教育学校 §

稲田 俊介



【活動日】2015年10月23日

【演奏曲】モーツァルト：幻想曲

シューベルト：楽興の時 第3番

ショパン：ノクターン 第2番／バラード 第1番

札幌開成中等教育学校は、世界標準であるバカロレアの教育プログラムを採用し、グローバル人材を育成するために2015年4月に開校した公立の中高一貫教育学校です。校舎も新しく校内も活気に溢れていました。

最近の学校訪問コンサートは体育館での演奏が多かったのですが、こちらでは音楽室で行われました。芸術科目で音楽と美術を選択している生徒約100名が、梯さんの演奏に熱心に耳を傾けていました。

演奏後は、生徒さんから梯さんに合唱「Beautiful Days」をプレゼントということで、発声練習から聴かせていただきました。担当の先生はオペラ歌手でもある中原先生。体格も良く普段お話しされる声も太く迫力のある先生でした。(でも優しいそうです)

深秋の札幌を彩る温かいコンサートになりました。



2015年度も梯さんは昨年10月北海道札幌を皮切りに、美幌、帯広、釧路と北海道演奏ツアーをしました。札幌開成中等教育学校での演奏はそのツアーの中で実施した「子どもに伝えるクラシック」の活動の一環です。ツアーが終わり梯さんがほっとしたところで、ファンクラブ事務局の企画による会員との懇親ツアーも実現しました。今回は10名足らずの参加者でしたが、その分大変親しく交流出来たようです。また2016年度も梯剛之さんはもとより、会員の皆さま方の交流にも寄与できるような新たな企画を立てて参ります。忌憚ないご希望ご意見をお寄せいただければ幸いです。

【事務局】

§ 石川県小松市立芦城小学校でダヴィッドさんとデュオ演奏 § 木田 智滋



【活動日】2015年12月9日

【演奏曲】ベートーヴェン：ヴァイオリン・ソナタ第3番

フォーレ：ヴァイオリン・ソナタ第1番

シューマン：トロイメライ

クライスラー：愛の喜び

プロコフィエフ：「三つのオレンジへの恋」より行進曲

エルガー：愛の挨拶

小松市立芦城(ろじょう)小学校で、全校生徒509名と保護者の前で演奏をしました。一昨年小松で行われた市立今江小学校での「子供に伝えるクラシック」に引き続いての活動です。

芦城小学校は、私の母校であり、創立220年を超える小松市中心部にある伝統校です。演奏会場の講堂にあるピアノは私の生まれた頃の60年前からあるもので、大変古く、演奏会にはとても耐えられないとの調律師さんの見解から、今回は3階にある音楽室のピアノを移動して演奏していただくことになりました。前回の今江小学校でのピアノの問題もあり、今回もまたピアノには頭を抱えることになりましたが、学校の協力もあり万全の態勢で演奏会を行うことができました。

前回同様、今回も私が司会進行をつとめさせていただいたのですが、ダヴィッドさんは日本語をうまく話せないため通訳を探していたところ、児童のお母さんが通訳のお手伝いをして下さいました。演奏中はお二人に曲目の解説を交えていただき、進行はスムーズに流れ、お二人の奏でる音色に子供たちもキラキラした眼差しで聴き入っていました。最後に児童が「BELIEVE」をお二人の伴奏に合わせて合唱し、広い講堂には歌声が響き渡りました。



後日、校長先生から、子供たちの感想文がありますので手渡したい、との連絡があり伺ったところ、50人を超える児童からのそれぞれの印象の感想文を手に入れました。一枚一枚ゆっくりと目を通すと、演奏者へのお礼や、クラシック音楽への興味を思わせる文章が綴られていて、子供たちにこの活動が十分に伝わったと感じました。

これからも、お二人が小松へ足を運ばれた折には、少しでも多くの子どもたちに向けた活動をしていただければと思います。

沖縄市立比屋根小学校 沖縄市立美里中学校での活動をしました（次頁の記事へ）



§ 沖縄市立比屋根小学校 沖縄市立美里中学校 §

稲田 俊介



比屋根小学校



美里中学校

【活動日】

☆2016年3月10日 沖縄市立比屋根小学校
 ☆2016年3月15日 沖縄市立美里中学校

【琉球新報に取り上げられました】

【演奏曲】

ショパン: 幻想即興曲／子犬のワルツ
 シューベルト: 楽興の時 第3番
 モーツァルト: トルコ行進曲
 ※美里中学校では全楽章(ピアノ・ソナタ第11番)
 合唱「ビリーブ」梯さんの伴奏で生徒さん全員で合唱
 ※比屋根小学校のみ

上記の日程で、沖縄で子どもに伝えるクラシックの活動を実施しました。



初夏を思わす暖かい気候、両校の生徒の皆さんと、熱心な学校の先生方の温かなおもてなしをいただく中、梯さんも初めての沖縄を楽しみつつ演奏と交流が出来たようです。



尚、3月15日の美里中学校での活動は、沖縄市文化観光課主導のもと「まちづくりNPOゴザまち社中」とのタイアップにより実現しました。

改めて本会報紙上にて、関係者の皆さま、ご支援頂きました皆さまに深く感謝申し上げます。

♥♥子どもに伝えるクラシック事務局より♥♥

子どもに伝えるクラシックHPには、自主活動の都度、動画をUPしています。

<http://classic-for-children.org/>

この活動は、主として学校や被災地でのコンサート活動を軸とし、梯さんご自身のピアノ演奏を通じて、勇気や感動を感じて頂いたりクラシック音楽をより識るきっかけとなればと願っております。会員の皆さまの母校やご関係先など、希望される学校がありましたら是非お気軽に下記事務局までご相談ください。事務局 Mail: info@classic for Children

♥2015年度ファンクラブ会費と共にご支援を頂戴した会員様、HPをご覧になりご支援いただきました皆さま♥
 新島学園中学校・高等学校様、野口千枝子様、木田徳子様、小倉町子様、渡邊幸子様、西村晃様、臼木はるみ様、浅野偕子様、寺門由美子様、新山春子様、稲葉文子様、若林尚子様、猪口勇様、野崎英臣様、野崎晴美様、松本節子様、上海道竹重様、上海道洋子様、星田啓子様、その他会場の募金箱にお志を頂戴した皆さま方

この紙上を借りて改めて御礼申し上げます。有難うございました。

事務局便り



《月刊レコード芸術 2016年2月号にて特選盤になりました》

2015年2月21日 JTホール／ヴォルフガング・ダヴィッドとのデュオ2015 のライブCD が特選盤となりました。



◇収録曲目：

- ベートーヴェン : ヴァイオリン・ソナタ第6番 イ長調 作品30-1
 : ヴァイオリン・ソナタ第8番 ト長調 作品30-3
 フランク : ヴァイオリン・ソナタ イ長調



SONARE1030 ¥2,400(税抜) ¥2,592(8%税込)

⇒ファンクラブでは割引(2400円送料込)でお分けします。

会員の方は下記梯剛之オフィシャルファンクラブへお申し込みください。

E-MAIL takeshikakehashiofc@gmail.com

☎電話：090-6448-9324

FAX: 03-3421-9772

※CDに就いてのお問い合わせ：ソナーレ・アートオフィス 電話：03-5754-3102 ファックス：03-5754-3103

info@sonare-art-office.co.jp



《会員主導の梯剛之チャリティーピアノリサイタル(仮称)を企画・進行中です》

町田市在住の会員様が発起人となって、梯剛之ポプリホールチャリティーピアノリサイタル実行委員会が立ち上がり、下記により梯さんの演奏会が開催されることになりました。

現段階で既に町田市視覚障害者協会、町田市身体障害者福祉協会の後援をいただくことが決まりそうです。

必要経費を差し引いた利益は後援いただく視覚障害者、身体障害者の団体に寄付されます。

会員の皆さまにはお越しくことで是非ご協力をお願い致します。

◇開催日時：2017年2月4日(土) 13:30～

◇開催場所：東京都町田市 ポプリホール(小田急線鶴川駅そば)

◇演奏曲目、チケット料等詳細は未定。詳細決定し次第お知らせ致します。

♥ファンクラブ事務局では、梯さんの公演をご自分で企画実施したいという会員の方が居られましたら、現在進行中の上記公演にあるように、開催までのお手伝いを致します。

子どもに伝えるクラシックの活動と共に何なりとご相談下さい。

編集発行 2016年 5月 1日

梯剛之オフィシャルファンクラブ事務局

発行人 稲田 俊介

編集人 星田 啓子 原稿整理・校正 松本 節子

〒214-0038 神奈川県川崎市多摩区生田6-10-8-202

E-mail: takeshikakehashiofc@gmail.com

電話：090-6448-9324 FAX: 03-3421-9772

協力：米沢信用金庫

NPO 子どもに伝えるクラシック

八王子六つ星会(点訳)

古家峰子・上海道洋子(発送手配)



“子どもに伝えるクラシック”

下記のWEBで活動状況更新をしています

<http://classic-for-children.org/>

梯剛之公式HPもご覧ください

<http://kakehashi-takeshi.com/JA/index.html>

関西、東京 懇親会便り

大阪府高槻、兵庫県芦屋 ピアノリサイタルとその後の懇親会

兵庫県宝塚市 古家 峰子

梯さんの久々の関西公演が行われ、その後これまた久し振りの懇親会が開催されました。



3月20日(日)大阪府高槻市の摂津峡の 摂津響Saal

3月21日(祝)兵庫県芦屋市Salon Classic

摂津響SaalはJR高槻駅から市街地をバスで通り抜けた辺りの山の麓といった風景の中、緑に囲まれた素朴な佇まいのサロン。木の香りも残る落ち着いた雰囲気だった。梯さんは前日に38度の熱が出て、キャンセルの可能性も心配されたが、気力で乗り切れ、曲の弾き始めに、ピアニスト梯さんならではの作曲家の思いに深く入り込んだ解説

説をしてくださった。

翌日の演奏は阪急神戸線芦屋川駅近くにあるSalon Classicで行われた。

二日間共に70名ほどのこじんまりしたホールだが、どちらも超満員。ピアノがすぐ目の前にあり、演奏者の息遣い、緊張などが直に伝わって、ファンのほうも同じように息を詰めて緊張して第一音を待つ。そのときどきする緊張感はこういったホールでしか味わえないものだ。梯さんの昨日からの熱は下がっていない様子だったが、モーツァルトに始まり、ショパン、シューベルト、ベルク、ベートーヴェンと多彩な曲を準備され、最後まで立派に演奏された。

梯さんにとって大変な状況の中だったが、芦屋会場では演奏後、関西地区のファンクラブの懇親会が3年ぶりに開かれた。会場のスペースの都合で25名限定だったが、肩が触れ合うほどのぎゅうぎゅう詰めだったことからもっと参加されていたと思われる。

ファンクラブ事務局・稲田さんの司会で一人ずつ自己紹介をしたので、会場には親近感が生まれ和やかさが広がっていった。剛之さんの従姉さんご夫妻のユーモアあふれるご挨拶と、お父様の「ファンの皆様がいつも変わらず応援して下さいからこそ今の剛之があるのです」と過分のお言葉を頂き、皆それぞれの心の中で一層の応援を誓う気持ちになったと思う。



いつも力強い応援を惜しまず送ってられるH先生が「心に染み入る演奏で、主人の介護に明け暮れている私は元気をもらいました。息子よりお若い剛之さんを尊敬しています」と話されたのに続き、先生の活動のお仲間の方々も「大病の後で落ち込んでいましたが、きょうの演奏を聴いて、元気を出して頑張ります」などと口々に梯さんの演奏に感動と感謝を述べられた。梯さんの正面に座っていた大阪のK氏は感激のあまり言葉より涙が先に出て、あふれる思いを口にできないほどだった。彼の友人で梯さんを初めて聴かれたT氏はウィーン在住の経験があり、「まさにウィーンの風を感じた」と大層感銘を受けられたようだった。

参加者全員が、それぞれの人生の過程で梯さんのピアノに出会ってからの生活の変化を感謝を込めて一生懸命に語られたのが印象深かった。そして梯さんの演奏がますます力強く、かつ陰影の翳が深くなってきたとこれからの期待をこめて讃えていた。

音楽が好き、梯さんが大好きというファンばかりだから、たちまち旧知の如く仲良くなり、次回のコンサートと懇親会の参加を約して名残を惜しみつつ散会した。

東京 ファンクラブ主催 会員のための演奏会と懇親会

2016年2月6日(土)、東京渋谷にあるタカギクラヴィアサロンで梯さんの会員のための演奏と懇親会が開催されました。会員とその関係者50名限定でしたが、予備の椅子を出すご参加をいただきました。サロンも、その付属したレストランでの懇親会も超満員。この一年は懇親会開催が出来なかったための演奏会と懇親会でした。関西、北陸からも駆けつけた会員の方々とも久し振りの懇親となりました。(事務局)



梯 剛之 コンサート・チケット情報

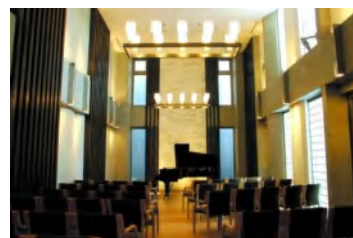
【新しい耳 テッセラの春・第18回音楽祭】

■5月20日(金) 19時開演 三軒茶屋サロンテッセラ(定員70名)

<http://www.salon-tessera.com/home.html>

〒154-0004 世田谷区太子堂4-22-6-4F

■演奏曲目 モーツァルト : サルティの主題による変奏曲 k. 460
 シューベルト : 6つの小品 作品19
 シューベルト : 楽興の時 第3番
 ベルク : ピアノ・ソナタ第1番
 ベートーヴェン : ピアノ・ソナタ第31番変イ長調 作品110



■会員割引: 5,000円⇒4,500円 ※下記6月4日(土)とセット購入で7,000円になります。

■申込方法(主催者へ直接申込): 株式会社アレグロミュージック 泉屋 七瀬さん

※「梯 剛之ファンクラブ会員」と明記して下記にお申し込み下さい。

〒102-0094 千代田区紀尾井町3-29-5002

TEL: 03-5216-7131

FAX: 03-5216-7130

e-mail: izumiya@allegromusic.co.jp

【梯 剛之ピアノ・リサイタル】

■6月4日(土) 14時開演 東京文化会館小ホール

■演奏曲目 モーツァルト : サルティの主題による変奏曲 k. 460
 : ピアノ・ソナタ第5番ト長調 k. 283
 : ピアノ・ソナタ第11番イ長調 k. 331
 ベートーヴェン : ピアノ・ソナタ第8番ハ短調 作品13「悲愴」
 : ピアノ・ソナタ第31番変イ長調 作品110

■会員割引: 一般券4000円⇒3800円(消費税・送料込)、

ペア券@3500円×2⇒3400円×2(消費税・送料込)

※上記5月20日(金)とセット購入で7,000円となります。

■申込方法: 梯剛之公式ファンクラブ 事務局

E-mail takeshikakehashiofc@gmail.com ☎ 090-6448-9324 FAX 03-3421-9772



【梯剛之ピアノ・リサイタル～米沢信用金庫創立90周年記念～】

■6月29日(水) 18時30分開演 米沢市 伝国の杜・置賜文化ホール



■演奏曲目 モーツァルト : ピアノ・ソナタ第11番イ長調 k. 331
 シューベルト : ピアノ・ソナタイ長調 D664
 チャイコフスキー : 四季より 12月 1月
 ベートーヴェン : ピアノ・ソナタ第23番ヘ短調 作品57「熱情」

■申込方法: 20名ご招待 梯剛之ファンクラブ事務局に申し込み(上記)

※20名のご招待をいただきました。こちらは梯剛之公式ファンクラブの
 会長加藤秀明氏(米沢信用金庫理事長)のご厚意によるものです。

追加情報: 8月25日(木)19:00開演 東京・市ヶ谷 ルーテル市ヶ谷ホール

【演奏曲目】シューベルト「鱒」他【会員割引】一般券5,000円⇒4,500円(消費税・送料込)

【共演】ヴォルフガング・ダヴィッド他 申込等詳細は追って事務局からご連絡致します。